令和4年度・第12回未来会議（全体会）議事録

鹿ノ台未来まちづくり会議（未来会議）会長　須都　紘
副会長兼書記・広報　伊藤　智子

日時：　令和5年3月19（日）13：30～15：20

場所：　西集会所

出席者（順不同、敬称略）：
須都　紘（会長）、黒部　實（副会長）、伊藤　智子（副会長・書記・広報）、
鎌田　卓（事務局長・会計）、平尾　英城、山田　勲、中世古　昭一、黒田　勝行、
山田　修、谷猪　富貴子、田口　信義、平井　誠三、
オブザーバー参加：　中尾節子、田中真理子、芝田和美
欠席：　三室　哲哉、鈴木　豊、渡辺　昇、山地　祐輔、蔵田　かほり

配布資料：
① 令和4年度第12回（3月度）未来会議（全体会＆分科会）議題（案）
② 【支え合い委員会・活動計画】案 V4
③ 困り事　ヒアリング（田口担当部分）V4.2
④ 生駒市コミバス『たけまる号』鹿ノ台線　実証運行　乗車実績（人数）R5.2月度
⑤ 生駒市コミバス『たけまる号』鹿ノ台線 実証運行実績 分析 V2 令和5年2月度
⑥ 鹿ノ台　防犯カメラ設置候補箇所図
⑦ 「鹿ノ台中央公園をもっと楽しむためのワークショップ開催」チラシ＋アイデア募集集計結果
⑧ 「鹿ノ台中央公園（しかのだいちゅうおうこうえん）をもっと楽しい場所（たのしいばしょ）にするために」チラシ＋アイデア募集集計結果（あいでぁぼしゅうしゅうけいけっか）

会長挨拶

本日の傍聴者について：　本日は田中真理子さん（南1）と芝田和美さん（東3）のお二人が傍聴に来られている。
マスクの着用について：　国・県・市の方針として、3月13日からマスクの着用については個人の判断に委ねることとなった。いきいきホール委員会では、以下の様に決定した。来館者のマスクの着用については①個人の利用者は個人の判断に委ねる、②団体グループの利用者は、個々のグループの判断に委ねる、③交流サロンのボランティア、キッズ＆シニアルームの世話役、土日の管理スタッフ、および事務職員については5月8日まで着用する。その他、④交流サロンのアクリル板の設置は当面継続する、⑤来館者の記入カードは3月13日をもって廃止する、⑥飲食については、交流サロンでの軽食は可、2階は不可とする。未来会議では、5月8日までマスク着用を継続したいと思う。→承認。

未来会議構成員の退任について

谷猪富貴子さん： 未来会議発足以来、子育て分科会のメンバーとしても活躍されたが、コロナ禍が一段落し、他の仕事や活動の多くが再開され多忙になるため退任される。今後も、可能な時には手伝ってくださる。
平井　誠三さん： 令和4年度から前任の鹿ノ台地区の老人会の代表に代わって参加していただいた。高齢者分科会から生まれた支え合い委員会の活動に4月から注力されることとなった。他にも多様な活動に関わっているので、未来会議からは退任される。
鈴木　豊さん： 未来会議発足以来、書記・広報および子育て分科会リーダーとして活躍して下さったが、一身上の都合により今年度での退任の申し出があった。

・R5年度の未来会議メンバーについては、検討して適宜補充していきたい。
・自治連合会からは、連携担当の後任者を次回紹介していただける予定である。

質問： 谷猪さんに、小中学校の情報を伝えていただける方を、後任として推薦していただけないか。
回答： 小中学校の育友会の活動も縮小しており、委員さんの選出にも苦労されている。皆さん仕事をされており、ボランティアでつなぐのは難しい。未来会議には適宜、私（谷猪さん）より情報提供させていただく。地域学校協働活動への協力をお願いさせていただくこともあると思うので、今後もよろしくお願いしたい。

→3名のメンバーの退任について、承認した。

子育て分科会

鹿ノ台中央公園アイデア募集の集計結果とワークショップの案内パンフレット：
・「鹿ノ台中央公園をもっと楽しむためのワークショップ」のご案内とアイデア募集の集計結果を掲載した A4見開き4ページのパンフレットを作成し、自治会に回覧した。鹿ノ台中学校には自治会員向けと同じパンフレットを、鹿ノ台小学校には子供向けにアレンジしたパンフレットを、児童・生徒一人一人に配布していただいた。
・アイデア募集に対して、自治会員からは145通、小学生からは497通、中学生からは15通の応募があった。

集計結果：
・自治会員と中学生の回答については、前回の報告通りである。自治会員の皆さんのご意見は多様であり、遊具設置に関しても意見の隔たりが大きかった。中学生はスポーツ設備を希望する意見が多く、また、半数がフリーマーケットなどのイベントを希望していた。
・中間報告には間に合わなかった小学生の集計が終わり、パンフレットに掲載した。小学生からは、欲しいものとしては「遊具」376件と「スポーツ設備」88件が多かった。遊具の内訳では、「アスレチック」118件と「ブランコ」99件、「すべり台」78件などが多かった。スポーツ設備としては「サッカー」設備が37件、「バスケットボール」設備が31件だった。中央公園の使い方については、「遊び」408件が

一番多く、「運動・スポーツ」104件が続いた。球技をしたいという回答も95件と非常に多かった。小学生の回答には、「皆で楽しむ」という意見が多く、「大人も子どもも」「いろんな人が」「他の人のじゃまをしないで」というような、他者への配慮が感じられる回答も多かった。「大切に」「きれいに」使いたいという回答も31件あった。

ワークショップ（話し合い）の開催：
・この結果を踏まえ、5月20日（土）、6月17日（土）、7月22日（土）の3日間、ワークショップ形式の話し合いを開催する。中央公園をもっと楽しむための方策について検討し、可能であれば具体的な実施計画まで参加者みんなでつくっていきたい。
・この活動が、長く住んでおられる70代以上の世代と、近年増えてきた30～40代の子育て世代が、ライフステージや世代の違いを超えて、相互の理解を深め、楽しく共に過ごしていける鹿ノ台をつくっていく機会の一つになれば嬉しい。

意見： 70代以上の世代もかつては子育てしていたが、今は静かな環境を望んでいる人が多い。今子育て中の方々も、先々は公園に求めるものが変わっていくだろう。子どもも、年齢ごとに希望する遊具や設備は違っている。このようなニーズの違いをどう克服するつもりなのか。
意見： これまでの鹿ノ台の変遷を見てこられた方のご意見は、是非ワークショップでも共有していただきたい。また、生駒市のみどり公園課にもワークショップにオブザーバーで参加してもらい、できること、できないことの判断もしていただいたら良いのではないか。
回答： みどり公園課には話をしている。係長が時間が取れたらオブザーバーで参加して下さることになっている。

意見： 例えば「ゾーニング（エリア分け）や時間帯別での利用を促進しよう」という話になったとして、その実施を徹底する役割は誰がどのような形で果たすのか。
回答： それを含めて、ワークショップで話し合っていったら良いのではないか。3回のワークショップで何かを決めることができなければ、その後も何らかの形で継続的に議論していったら良いと思う。
回答： 当事者はすべてボランティアであり、資金もない中での話し合いなので、関わってくれた方のアイデア次第、意欲次第ということになるため、今の段階で子育て分科会メンバーが確約できることはあまりない。

情報： 運動・スポーツ関連の希望が多いようだが、運動公園を活用することを考えてはどうか。土日は既に使われていることが多いが、平日は空いていることも多い。運動公園は市の所有だが、管理は自治連合会に任せられている。現在は6～7団体が使っているが、連合はスケジュールを管理しておらず、関係者の間で調整している状態である。今後は、連合自治会でスケジュール管理をしていく必要がある。
情報： サッカーが盛んになり、10年ほど前に連合から要望してサッカーのボードを設置してもらったこともあった。スポーツに関する要望は、運動公園で対応してもらうことを考えても良いかもしれない。

支え合い委員会・活動計画

「困り事」のヒアリングを実施：
・昨年4月に支え合い準備委員会を発足させた。住民の「困り事」の全戸調査を行い2200世帯（回収率は約80％）から回答を得た。
・今年1月～3月に、チェック項目（全12項目）が多い重点援護者（170件）のうち130件にヒアリングを行い、「困り事」の実態把握が進んだ結果、活動の方向性が見えてきた。

R5年度の活動：
・委員会で規約や構成員について明確化し、R5年度4月から支え合い委員会として活動を開始していく。
・重点援護者であるヒアリング対象の方々に対しては、年数回の見守りを実施していく。街づくり会（送迎／サロン活動等）や ICT 連携委員会（電子回覧等）、東西南北桜美会／かしのき会（健康などサロン活動）に協力を求めていくとともに、生駒衛生社（ごみ回収）や近隣電気店などの有償サービスの紹介もしていく。街づくり会の阪大プロジェクト（社会的孤立早期検知と医療／地域連携）とも連携していく。

質問： この支え合い活動の対象者は何人くらいおられるのか。また、現在送迎支援を受けているのは何人か。生駒市は、このような人々にどのような支援を行っているのか。
回答： ヒアリングが必要と考えた重点援護者が170名いたが、実際に話を聞くと、支援が必要なのはその3分の1ほどの人数だった。継続的にフォローが必要な人はそれよりも少ない。送迎支援は現在30名ほどに提供しているが、今後増えていくだろう。
意見： 行政だけではカバーできないので、地域の力を借りたいという事情があるものの、地域包括支援センターの対象となる案件も含まれると思うので、市の担当者や地域包括支援センターの担当者などプロにも相談し、プロに任せるべきところは任せ、アドバイスを頂きながら進めた方が良いのではないか。介護認定を受けた方が良い人でまだ受けていない人もいると思う。
回答： 支え合い委員会の月例会には、地域包括支援センター、社会福祉協議会、生駒市福祉政策課が参加してくれている。市からは重層的支援体制整備事業の説明も受けたが、分かりにくかった。窓口をワンストップサービス化するというような事業だと思われる。また、ヒアリングの結果は地域包括支援センターとも共有していく予定である。地域包括支援員がヒアリングのための訪問にも同行したいとも言われている。

情報： 送迎支援を行っているメンバーは男性6名女性1名、男性はすべて70代であり、数年後には支援を受ける側になる可能性が高い。募集しても新たなメンバーがなかなか見つからない。将来的には送迎支援の提供が難しくなるかもしれない。

意見：　要支援・要介護は行政と連携すべきだが、その一歩手前のフレイルの方が増えており、そうした方々への支援が必要と考えている。これが支え合い委員会の対象者である。

質問：　民生委員の活動との関係はどうなっているのか。
回答：　民生委員の活動領域と重なっていても構わないと考えている。民生委員では支え切れていないところを支えたら良いというスタンスだ。地域を良くするには面識・交流・半透明の付き合いが大切という帝塚山大学名誉教授の中川先生の言葉を実践していきたい。
回答：　民生委員の活動内容については、それぞれの個人の裁量に任されている部分があり、個人差が大きい。民生委員は緊急連絡先などの情報を行政に届けるのが主な役割であり、また1人で一自治会全体を受け持っており、見守り以上の行動を求めるのは難しい。支え合い委員会は民生と一緒に活動するのではなく、委員会活動で集めた情報について守秘義務を守り、独自に活動していく。
情報：　昨年12月から民生委員の新たな任期が始まったが、民生委員が欠員の自治会も鹿ノ台で2地区ある。また、今回は若い新任の方が増えており、民生委員の仕事について研修を受けている段階である。民生委員は見守りについてはしっかりやっていこうとしているが、自分の地区内でしか活動できないという制約もある。できるところからコツコツやっていこうというスタンスである。

まとめ：　未来会議メンバーから5名が支え合い委員会に参加している。要介護・要支援に認定されていないフレイルの方を支えることを主眼に、具体的な活動を一つ一つ実践して行くことが大切である。4月から支援活動が始まるが、担い手であるサポーターがまだ9名しかいない。ご協力いただける方は是非サポーターにご登録いただきたい。

鹿ノ台コミバス12月度乗車実績について（報告）

<u>2月度の実績と7か月の累計：</u>
・まちづくりの基本の一つが交通インフラだと思うので、毎回報告させていただいている。
・R5年2月の実証運行の日数は12日、乗車実績は累計557人、一日あたり平均46.4人である。1日あたり50名を超えた日が5日あった。午前乗車が48％、午後乗車が52％である。いきいきホール降車が88名で16％を占めており、いそかわ協賛キャンペーン開始後に1．8人増加した。このキャンペーンは12月末から実施しており、3月末に終了予定だったが5月末まで2か月の延長が決まった。
・地域別の乗車割合は、いきいきホール前からの乗車を除いた数値を100として、東地区からは26％、西地区からが24％、南地区からが17％、北地区からが33％と、北地区の利用者が増えている。昨年8月～今年2月の8か月累計は、運行日数84日、利用者合計3706人、一日あたり44．1人だった。

<u>実証運行の延長とダイヤ改正：</u>
実証運行は今年7月までとなっていたが、本格運行に移るまでには10月の協議会での決定後2か月の準備期間が必要である。運行が止まる空白期間を作らな

いため、3月3日の市の協議会において、今年12月末までの実証運行の延長が決定した。評価期間は7月までの1年間について行う。その後、本格運行に移るかどうかの住民の意思確認を行い、10月の協議会に諮ることになる。ダイヤの一部改正も決定した。①11:35発をなくし、12：10発を新設する、②13：05発を12：50発に早める。新ダイヤは5月1日から実施される。

「コミバスで行く、オープンガーデン・チューリップ鑑賞会」：
給水塔西側の鹿ノ台オープンガーデンでは、毎年チューリップやアイリス、桜が楽しめる。ECOKA 委員会の協力を得て、指定のコミバス便に乗ってオープンガーデンで満開のチューリップを楽しんでもらうキャンペーンを実施する予定である（4月12日（水）と14日（金）の2日間）。参加者にはいきいきホールのコーヒー券を進呈する。1週間後にチラシを配布・回覧する。

鹿ノ台地区の防犯カメラ設置完了の報告（地域安全推進委員会）

・鹿ノ台には9年前より防犯カメラが3台設置されている。生駒市と鹿ノ台自治連合会からの補助事業により、この3台の老朽化した機器の交換とを行い、現在稼働中、さらに新規に2台を2月末に設置完了した。計5台が現在稼働中。
・これまでは1週間程度しか連続記録できなかったが、新しいシステムでは約20日間の記録が可能となった。今後は業者に依頼しなくても警察からの依頼が有った時、生駒警察署員が地安推委員、自治会役員立会いのもと録画を確認できる。また、これら5台に加え、車道に接していない道にも6か所を新たに防犯カメラの設置候補箇所に挙げている。

次回

日時：　令和5年4月23日（日）　13：30～16：30
「東西」の構成員および幹事は13：15集合

場所：　西集会所

以上